

会議結果報告書

1. 会議名 令和元年度 第9回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和2年2月21日（金）9：30～11：30
3. 場所 農業委員会会議室
4. 出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、平林委員、福井委員、橋本委員
事務局：黒田、藤原（環境保全課）
5. 傍聴者 1名
6. 配布資料
 - ・会議次第、席次表
 - ・気候変動の転換点、IPCC 特別報告書(参考資料)
 - ・印西市環境基本計画(案)作成に対する提言(案)
7. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議事

①市民会議での検討事項について

会長：今後の環境基本計画の策定に際し市民会議より意見を出したいと思う。その前に環境基本計画にも関係すると思われるもので、皆さんにお配りした資料の気候変動の転換点を見ていただきたい。気候変動の転換点とはその気温を超えたら、たとえ温室効果ガスの排出量を0にしても気温は下がらず、その状態が長年続くことをいう。この状態になるのは10年先との説が有力である。

日本は2030年までにCO₂を25%減、千葉県は21.8%減らす目標を立てているが、家庭部門では46.2%減らすとのこと。県の職員にそんなことができるのか聞いたところ、省エネ家電やLEDの普及によりそう難しいことではないと言われた。

IPCC 特別報告書によると、仮に2030年以降に大幅な排出削減をしても地球温暖化を1.5℃以下に抑制することができないとあり、2030年より前にCO₂排出量が減少し始めれば1.5℃に止めることができるとある。アメリカではそのうち化学の力で下がると思っているが、今下げなければいけない。

委員：家庭でできることは電気やガスの節約だが、各家庭の生活様式は違うため、家族での話し合いが必要。

委員：温暖化はもちろん大切だが、里山や生態系を守ることが印西市ができることだと思う。温暖化は、国が取り組み、それに伴い印西市も一緒にやっていくべき。

副会長：今後、環境基本計画が出来上がる前に、市民会議としての意見をまとめていきたいと思う。取り纏めのイメージ、論点のメモを作成してみましたのでまず説明しま

す。議論の範囲は当面は制限を設けなくて、批判ではなく建設的・実行可能な提案としたい。基本計画に盛り込むべき全体課題として1番目に、この10年間の大きな変化として次の事項が挙げられる。自然災害、SDGs、環境意識の高まり、原発、マイクロプラスチック問題、新型コロナ、多くの企業の進出。2番目に基本計画の期間について。3番目に、現計画全体の評価。4番目に防災と環境問題。5番目に印西市の強み・弱みの把握。また、個別課題の設定として民有地の危険木やグリーンインフラ、その他の課題として審議会と市民会議の連携や、白書の重要性の再認識、また、用語解説は必要十分か等が挙げられる。その他意見等があれば伺いたい。

委員：生態系や里山保全についても追加していただきたい。豊かな自然環境をいかに壊さずに保全できるかが大きな柱になると思う。里山を守ることでヒートアイランドなど、温暖化を止めることにもつながると思う。また、環境基本計画の自然環境調査の調査項目について、生き物の住む環境がどう変わっているか調べる必要がある。

委員：現在の基本計画は非常に良く出来ていると思う。印西市の環境は特段悪いわけではないと思うが、10年後の姿をイメージしたときに、10年後にイノシシがいる町でいいのか、災害があったときは・・・と考えながら付箋に記入したが、どれも簡単なことではないと感じた。

委員：最近宅地造成が進み家が多く建設されているが、窓の無い小さな家が増えてきた。景観的にも美しくないし、窓が小さいためすべてエアコンでまかなっており環境にも優しくない家の建て方だと思う。

会長：今の家は断熱重視である。コンパクトシティが売りになっている。

副会長：では、ワークショップ形式で検討することになっていたのでテーマごとに模造紙に皆様の意見（付箋）を張って説明していただきたいと思う。

委員：自然環境について、グリーンインフラを考え、今ある里山や谷津を活かしてほしい。行政だけではなく団体との連携が必要。個人的には10年後イノシシがいてもいいのではないかと。共生していればいいと思う。また、団体向けに外トイレと保全作業のための倉庫を設置してほしい。生活環境については、師戸川の水質や光化学スモッグ。また、非常用の井戸の設置をぜひ実現してほしい。そして、高齢者が増えるため安心して暮らせるまちにしていきたい。都市環境については、自動運転バスを考える。不法投棄対策として監視カメラを増やす。地球環境としてはSDGsの取り組みを推進していただきたい。一番大切なのは今の状態からこれ以上悪化させないこと。

委員：都市環境について、井戸のポンプを電動だけではなく、手動のものがあれば停電時でも使用できるため、増やしてほしい。また、ふれあいバスの本数を増やす。

委員：都市環境について、土地利用や景観について今後どのようにしていくかのビジョンを知りたい。また、不法投棄対策で何をしているのか具体的なことが知りたい。公

園の維持管理について、市民が自分たちで掃除して市と連携を取り、自分たちの憩いの場であることの認識をしてもらいたい。公園の防災基地化がどの程度できているのか。無形文化財については、後継者不足で今後廃れる可能性があるためこのような観光資源を守る取り組みをする必要がある。

委員：自然環境について、グリーンインフラはハザードマップとの連携を取っていく必要がある。農業を守り、防災、景観上にも街づくりとして市がもっと協力していく必要があるのでは。また、守るべき地域を選定し、その中でゴルフ場周辺の谷津を入れたい。また、外来種対策として条例を制定し、持ち運びだけでなくリリースを禁止にしたい。人づくりについて、保全のための自然参加体験のような仕組みづくり。その他として、現状分析をきっちりやるべき。耕作放棄地がどれだけ増えたか、枝谷津がどれだけ減ったか、こういった環境の変化を掲載してほしい。そして、これらを実行できるようなシステムづくり。(条例や規則)また、景観条例との関係を深めるとともに、里山を守るために森林環境贈与税をうまく使ってほしい。

会長：地球環境として、2030年までの市の目標を市役所内だけではなく全体の目標を決めるべき。また、気候非常事態宣言を自治体でも出しているところがある。印西市でも出してほしい。また、災害に強いまちづくりとして地域との団結が必要。周りに誰が住んでいるのか、挨拶から始めいざとなったときには助け合う。生活環境として、食品ロスの法律が施行されたが、市として計画の策定が必要。また、海洋プラスチック問題は具体的に立法化されていないが、規制するべき。

副会長：今回は本日のご意見をもとにさらに深堀していきたいと思う。

令和元年度 第9回 印西市環境推進市民会議の議事録は、事実と相違ないことを承認する。

令和2年3月19日

委員 白川 卓生

委員 小山 尚子